

GER300 ドイツ言語文化講読

3年 1,2クォーター

担当教員	磯崎 康太郎
授業形態	演習
アクティブ・ラーニング	一部導入
単位数	2
曜日・時限	木曜日・5時限

授業概要

ドイツの外国向けのラジオ放送「ジャーマン・ウェーブ (Deutsche Welle)」の各種のドイツ語の記事をテキストとして扱う。テキストとなる記事は、受講生が自らの関心に基づいて選択する。ドイツ語圏のさまざまな社会問題や日本とのかかわりについて、テキストの読解を通して理解を深める。ドイツ語テキストの講読が授業の中心となるが、映像資料等を通して内容を補足する予定である。

到達目標

学生は、

- (1) ドイツ語の文章構造を理解し、中級に近づく語学力を獲得する。
- (2) 時事問題を扱ったテキストを通じて、ドイツの現代事情について理解を深める。
- (3) 各自が担当箇所の読解と訳出に責任を持ち、積極的に協働的な学びを経験する。

期待される効果

- ・ 時事的なテキストを通じて、現代のドイツで実際に使われている生きたドイツ語を習得することができる。
- ・ 英語とも親縁性の強いドイツ語の語学力を高めることにより、国際社会でより活躍できる人材となることができる。
- ・ 日本のメディアによる報道とも異なるヨーロッパ（ドイツ）の報道に直接親しむことにより、物事への多角的な視点を獲得する。

先修科目

「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」、あるいは「ドイツ語の世界1, 2」が既修であること、「ドイツ語Ⅲ、Ⅳ」も履修しておくことが望ましい。

教科書・参考資料等

配布資料を主たる教材とするため、教科書はとくに指定しない予定である。参考書は、以下のものを指定するが、個別作品の参考文献については随時紹介する。

- (a) 中島悠爾他『必携ドイツ文法総まとめ』 白水社 2003年
- (b) 浜本隆史、高橋憲『現代ドイツを知るための62章』 明石書店 2013年
- (c) 小島泰（監修）『ドイツ人が日本人によく聞く100の質問』 三修社 2009年

授業の方法

この授業は演習形式を基本とする。受講生は予習としてドイツ語テキストに目を通し、読解したうえで、授業時にその成果を発表し、担当教員が適宜、内容の解説や文法事項の説明等を行っていく。理解の到達度を見るために、学期末には最終試験を行う。

成績評価

【発表資料】

各自が、自ら選出したドイツ語テキストについて、全訳を書き出した資料を作成し、該当テキストの内容理解を授業で行った後に、提出する。

【学期末試験】

授業で扱ったドイツ語テキストや配布資料等をもとに試験範囲を設定し、ドイツ語の語学力を問う学期末試験を行う。

成績

30%	授業への取り組み、発表資料
70%	学期末試験

授業スケジュール

第1回:

ガイダンス、現代ドイツ事情についての概説と「ジャーマン・ウェーブ (Deutsche Welle)」の紹介

第2回:

講師が選出した記事の読解、解説と文法的補足、受講生が選出した記事についての調整

第3回:

受講生が選出した記事の読解、解説と文法的補足①

第4回:

受講生が選出した記事の読解、解説と文法的補足②

第5回:

受講生が選出した記事の読解、解説と文法的補足③

第6回:

受講生が選出した記事の読解、解説と文法的補足④

第7回:

受講生が選出した記事の読解、解説と文法的補足⑤

第8回:

前半のまとめ：内容的・文法的補足、後半で扱う記事の選出

第9回:

受講生が選出した記事の読解、解説と文法的補足⑤

第10回:

受講生が選出した記事の読解、解説と文法的補足⑥

第11回:

受講生が選出した記事の読解、解説と文法的補足⑦

第12回:

受講生が選出した記事の読解、解説と文法的補足⑧

第13回:

受講生が選出した記事の読解、解説と文法的補足⑨

第14回:

受講生が選出した記事の読解、解説と文法的補足⑩

第15回:

全体のまとめ：内容的・文法的補足、映像資料、学期末試験範囲の確認

事前・事後学習

- ① 各回の授業で扱うドイツ語テキストを事前に読解し、不明な箇所等を明確にしておくこと(予習)。
- ② 授業の後に、授業で扱ったドイツ語テキストによく目を通し、不明な箇所が解決されたことを確認すること。配布資料と共に対応する参考資料等の項目について理解を深めること(復習)。